

事業実績報告書

様式 2
(2019年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-57	講座名	蛇口の向こう～水源の森へ！
記載日	2020/3/31	団体名・企業名	
〈講座全体の概要〉(300字程度)			
<p>ふだん何気なく使っている水道の水が、どこからどのように送られてくるのかを知り、水源となっている森（手入れされた森と、放置された森のちがいなど）を見て、水を育む森の働きなどについて考え、さらに森の手入れ作業を体験することによって実感してもらう。当講座で対象とするフィールドは、矢田川源流の当会が活動する愛知県有林と東大赤津研究林は、瀬戸市馬ヶ城浄水場の水源であり、近接した位置関係にあり、水道水と水源の森をリンクしやすいので、実際に見て歩いてもらい体感する。さらに、かつて禿げ山であった焼き物の町瀬戸で百年にわたる研究が続けられている東大生態水文学研究所において、講義を受け研究林を見学しながら水源涵養機能など森の働きについて考えてもらう。</p>			
			
※写真1の説明		※写真2の説明	
<p>第1回で瀬戸市にある馬ヶ城浄水場の緩速濾過池の周りで、その歴史や施設の特徴の説明を聞く。</p>		<p>水源地である森の貯水池を見学し、澄んだ透明な様子を見て、この後、林内の溪流沿い遊歩道を辿る。</p>	
〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)			
<p>4回シリーズで浄水場とその水源である森を訪ね、さらに東京大学生態水文学研究所での講義や見学を通じて、水をはぐくむ森の働き・水源涵養機能などについて考えてもらう内容で、ストーリー性のある講座で4回通しての参加を呼び掛けた。直前で家族参加者が都合で残念ながら欠席となったが、ほとんどの参加者は通しての参加で、アンケート結果によると、おおむね満足していただけた。新型コロナウイルスの感染拡大で第4回の森林作業体験が中止のやむなきに至り、当会の活動の様子や会員との交流もできなくなり残念であったが、事態が収束すれば5月までに延期実施予定である。</p>			
〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3～5点、計350字程度)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段は入れない浄水場を見ることができ、貴重な体験ができた。水を守ってくれている方々のお話が良かった。 ・ 東大演習林での講座では、瀬戸の森の歴史を知ることができた。実際に森を歩いて規模感や地質、木々を体感できた。 ・ ふだん見られない水源地を見て、森の中をたくさん歩いて良かった。簡易トイレの使用感がとても良かった。ありがとうございます。いっぱいです。 			